初回特集 たるみず歴史・文化散歩

『垂水島津家』

たるみず歴史・文化散歩

今月号より垂水市の文化財や偉人などの歴史・文化をご紹介する「たるみず歴史・文化散歩」を連載企画としてお届けします。昨年5月20日に垂水市を含む1県9市で構成する鹿児島の「麓」が日本遺産に認定され、今年3月10日に垂水島津墓所が国指定史跡に指定されるなど、垂水市の歴史・文化が注目を集めています。

連載初回は、現在の垂水市の礎を築いた「垂水島津家」について特集でお届けします。

垂水島津家

垂水島津家は、島津本家15代・貴久の次弟・忠将を元祖とする家柄です。初代・忠将から16代・貴暢まで引き継がれます。慶長4年（1599年）初代・忠将の長男である2代以久の頃、本家島津家より大隅垂水を賜り領主となってから明治維新までの約270年間、ここ垂水を治めました。

この間、現在の街並みの基礎となる町割り（区画）の整備やよめじょ川疎水工事（水路の整備）、学問所である文行館の設立などが行われました。

垂水島津家の家紋

垂水島津家の家紋は、本家と同じものが使われている。島津家の中でも格式が高く、本家と同じ家紋の使用が許されていた。

島津家の長持

島津家の家紋が入った長持。垂水島津家16代・貴暢の関係者から市に寄贈いただいたもので、現在は垂水市文化会館に保管してあります。長持は、家具の一種で、衣類や寝具などを収納するのに使われていたもの。

昔のお長屋

現在は、修復をされているが元々は、全面木の壁であった。

お長屋

現在の垂水小学校は垂水島津家の居城跡で、慶長16年（1611年）垂水城（元垂水）から移転しました。当時このあたりは山林や原野であったため、林之城と言われましたが、後にお館（やかた）、お仮屋（かりや）と呼ばれました。現在は、門の一部であるお長屋だけが残っていますが、400年以上前の貴重な建物で、平成26年4月に鹿児島県の指定文化財となりました。

注目！

初代・忠将 生誕500年

2代・以久

初代・忠将の長男。天正5年（1577年）佐土原攻め等に加わり、三州統一に尽力。慶長4年（1599年）に大隅垂水1万1687石を賜り、垂水城（元垂水）に移城。慶長8年には、佐土原3万石（宮崎市）の領主を命ぜられる。

垂水島津家が垂水を治めたのは、2代・以久からとされている。

垂水島津家初代・忠将

垂水島津家初代・忠将は、島津忠良（日新斎）の次男として、永正17年（1520年）5月5日に日置・伊作の亀丸城で誕生しました。つまり今年は生誕500年目に当たります。

亀丸城（日置市）にある忠将の誕生石

忠将は勇猛果敢で長兄の貴久とともに岩剣城（姶良市）や廻城（霧島市福山）の戦いなど、三州（薩摩・大隅・日向）統一のために数々の戦で功績を上げました。

しかし永禄4年（1561年）7月12日、高山の国人である肝付兼續らと廻城における戦いで、敵の待ち伏せにあって討ち死にしました。忠将はついに垂水の地に入ることはありませんでした。

福山から牧之原の道中にある忠将の供養塔

垂水小学校裏手にあるお殿加神社
4代信久が寛永2年（1625年）再興

福山から牧之原に登る道路の途中には、陣没した忠将の供養塔が建っており、また姶良市の帖佐駅前には忠将の長男・以久（垂水島津家2代）が建てた供養碑が残されています。また、垂水小学校の裏手にある「お殿加神社」には忠将が祀られ、毎年7月12日に六月灯が行われています。

垂水島津家の成立

島津氏は三州（薩摩、大隅、日向）統一に向けて、薩摩半島を制圧したのち、大隅半島の征服にかかり、島津忠良の長男・貴久は天正2年（1574年）には高山の肝付氏、垂水の伊地知氏を降伏させ、大隅半島を島津の支配下に置きました。

島津氏は領内に外城制度を敷いて約110余りの武士集落「麓」を置き、武装国家のような国づくりを行いました。藩直轄の外城を地頭所と呼び、一門家や一所持が支配する「垂水」や「新城」などの外城を私領と呼びました。